

日本鉄鋼協会記事

昨年春日本鉄鋼協会設立 50 周年記念式典のおり世界各国からそれぞれの学協会の代表の方が列席下さり式典を盛大にすることができた。この好意ある各国の学協会に対し答礼の意味をかねて、今回は特にドイツおよびベネルックス 3 国に対し日本鉄鋼協会から鉄鋼使節団を派遣し、国際親善の使節としての訪問を行なった。

同使節団は佐野本会会長を団長とし湯川前会長、的場富士製鉄副社長を含む日本鉄鋼業を代表するメンバー 19 名よりなり（3 夫人を含む）、9 月 14 日羽田を出発、10 月 1 日ドイツ、デュッセルドルフにて解散しこの程全員無事帰国した。

新興鉄鋼生産国オランダの新製鉄所をはじめドイツ、ベルギー、ルクセンブルグにおいても画期的な合理化が進んでいる現況を知る機会を得、使節団を通じ欧州鉄鋼業に対する新しい認識が生れることが予想される。使節団が各国において受けた歓迎は大変なもので、ベルギーにおいては佐野団長が国王拝謁の機会を与えられた、またドイツにおいては佐野会長および湯川前会長がドイツ鉄鋼協会の名誉会員に推挙されるなど、使節団としてこの上ない栄誉の数々が与えられた。

今回の使節団は国際親善を目的としたものであるが、今まで日本の方々がほとんど見ていない新製鉄所やユーロポートの視察および欧州鉄鋼業を指導する方々との意見交換の機会が多かつたので近々報告書を取りまとめ出版することになっている。

理 事 会

第 6 回理事会 開催日：9 月 13 日。出席者：佐野会長
他 34 名。

会議事項

1. 共同研究会熱経済技術部会長の解嘱、委嘱の件
申し出により藤本一郎君（川崎製鉄社長）を解嘱し、桑畑一彦君（川崎製鉄参与）に熱経済技術部会長を委嘱することに決定。
2. 鉄鋼 2 次製品生産設備調査委員会設置の件
武田委員長の下に設置を決定。
3. 昭和 41 年 7、8 月分および第 2 四半期予算実績対照表に関する件
承認、これに関連し会計分科会から提出された訪独ベネルックス鉄鋼使節団派遣収支予算書を原案通り決定し、また学会に対する課税について日本工学会から出す陳情書に本協会も名を連ねることを決定した。

企 画 委 員 会

第 5 回企画委員会 開催日：9 月 9 日。出席者：伊木
委員長他 17 名。

会議事項

1. 鉄鋼 2 次製品生産設備調査委員会設置の件
武田委員長の下に設置を決定。
2. 国際技術交流に関する報告
10 月 7 日より 11 月 18 日までドイツより 4 名。10 月 9 日より 24 日までオランダより 4 名。11 月にスウェーデンより 10 名位のデレゲーションが来日する。
3. 表彰奨励候補選考小委員会について
山本、荒木、橋口各委員長の下に設置
4. 会計分科会報告
7、8 月分予算実績対照表、資金繰表、訪独ペネ

ルックス鉄鋼使節団派遣収支予算書、表彰ならびに事業資金規程改正案などについて会計分科会の審議経過を報告した。

編 集 委 員 会

第 8 回和文会誌分科会 開催日：10 月 27 日。出席者：
荒木主査他 10 名。

会議事項

1. 論文審査報告 報告数：4 件、掲載可：3 件、著者修正のため返却：1 件
2. 鉄と鋼第 53 年第 2 号掲載論文について
論文 4 件、特別講演 2 件選定済み。
3. 論文執筆依頼について
論文、技術資料、講義など、テーマと執筆者をあげ依頼することになった。

第 6 回欧文会誌分科会 開催日：10 月 24 日。出席者：
橋口主査他 12 名。

会議事項

1. 従来用いられてきた Trans. I. S. I. J. の脚注を簡単な表現にする案が出され、ほぼ決定した。
2. 原稿依頼状受領通知掲載決定通知などの発信、文書内容および発信責任者の検討が行なわれ各々決定した。
3. 依頼論文一件が推薦された。
4. 文献略記例、short note に関しては次回委員会に持ちこされ検討される。

資 料 委 員 会

第 34 回委員会 開催日：10 月 14 日。出席者：草川委員

長他16名.

会議事項

1. 本委員会規程案の検討について

目 的

(第1条)この委員会は鉄鋼に関する学術技術の進歩向上に資するために必要な資料情報の収集、周知を計ることを目的とする。

2. ドキンメンテーション問題について.

3. 図書資料に従事する事務局内の人員問題について.

4. その他の問題について討論が行なわれた.

特別講演会開催

米国 Youngstown Sheet and Tube Company の R. E. Williams 社長, Dr. K. L. Fetters 副社長1行が来日され, 本会の主催で去る10月26日鉄鋼会館大会議室において Dr. K. L. Fetters による下記演題の特別講演会が開催された.

演題 Recent Technical Progress of U. S. Steel Industry.

故倭国一博士銅像除幕

本協会の創設者の一人である故倭国一博士の像が出身地である島根県浜田市に建立され, 去る11月3日除幕式が盛大にとり行なわれた. 氏は日本鉄鋼業の礎を築かれた方でその功績は大であり, また同県におけるただ一人の文化勲章受章者でもあります. 除幕式には本会から佐野会長, 田畑専務理事が列席した.

共同研究会

鋼管部会

継目無鋼管, 溶接鋼管分科会 開催日: 10月21, 22日
出席者: 井上, 筒井主査他98名.

会議事項

1. 共通議題

前回非破壊検査設備の概要を取り上げたので今回はさらに掘りさげ製造工程においていかにNDIが利用されているか, NDIにおける標準疵と自然疵との関係などについて14編の資料が提出され討論された.

2. 継目無鋼管分科会

マンネスマン関係についてはピレット形状および加熱条件が成品の偏肉におよぼす影響について各社実験を行ない, 両者ともあまり大きな影響がないことを確かめた. また, 押出関係については各社とも管の長手方向に管の偏肉のパラッキが認められ, これをいかに少なくするかが今後の研究課題であることがわかった.

3. 溶接鋼管分科会

低周波溶接に比較して, 高周波溶接に関し溶接不良 Heat Mechanism 溶接条件と溶接強度について11編の資料が提出され活発に討論された.

計測部会

第35回部会 開催日: 10月4, 5日. 出席者: 桂部会長他58名.

会議事項

今回は共通議題として流量計の精度を取り上げ, 各種流量計の精度について5編の資料が提出され活発に討論された. また各工程における計測に関して11編もの資料が提出された.

なお, 磯部副部長がIFACに出席された際欧州各国の研究所を見学されたので, 各国の計測機器, 制御機器に関する研究状況の話を伺い非常に有益であった.

新技術開発部会

クレーンスケール小委員会

第3回小委員会 開催日: 10月12日. 出席者: 岡部委員長他22名.

会議事項

試作担当メーカー大和製衡(株)の仕様書案に前回小委員会で提案された意見を取り入れ, 最終仕様書案の基本線を決定した. なお現在最も精度が良いと思われる川崎製鉄(株)千葉製鉄所のレードルクレーンスケールの使用結果を聞き今回の試作機におおいに参考になった.

今後試作と平行して, 検出端, 自動平衡機構, 各部品検査保守などの問題点を検討していくことになった.

鉄鋼分析部会

鋼中非金属介在物分析委員会

第8回小委員会 開催日: 9月9日. 出席者: 前川小委員長他12名.

会議事項

1. ヨウ素メタノール法は一応打ち切り今までのデータをもとに小委員会推奨法を作成する.
2. 今後共各社はヨウ素メタノール法の自発研究を継続し必要に応じてこのテーマをとりあげる.
3. 今後は酸溶解法による酸化物系介在物の共同実験を行なう.
4. 基礎共同研究会鋼中非金属介在物部会に試料の分譲を依頼する.

鉄鋼化学分析分科会

第2回分科会 開催日: 9月13日. 出席者: 武井主査他29名.

会議事項

1. ISO/TC17/SC の経過報告
2. JIS 鉄鋼化学分析方法アンケート集計結果説明
3. 今後の進め方
 - 1) 検討期間は2年位とする.
 - 2) 元素および分析方法は重点をしぼって検討する
 - 3) 現行の問題点を調査する

なお, 元素ごとに各製鉄所の分担を定め, 担当箇所分析方法原案および共同実験案の作成を行なう予定である.

設備技術部会

第2回部会 開催日：9月28日。出席者：桂部会長他19名。

会議事項

1. 自転車振興会より補助金をうけ、製鉄設備の国産化および新設備開発をはかるため、関係鉄鋼、機械メーカーにアンケートを求め製鉄機械の輸入状況とその推移を調査してきたが、幹事会において報告書の作成が完了したので提出され承認された。
2. 上記製鉄機械の輸入状況調査を基礎に、機械メーカーと製鉄メーカーとの情報交換の場をもつため、さらには共同研究まで進めるために、鉄鋼設備分科会、圧延設備分科会を発足させることになった。

標準化委員会

鋼管分科会

第10回分科会 開催日：10月20日。出席者：中谷幹事他17名。

会議事項

第1回 JIS 配管用鋼管規格原案分科会でユーザー側より提起された種々の問題点に対するメーカー側の意見をまとめた。

おもな点は

1. 大径電縫管 16", 18", 20" は圧力配管用のみならずガス管にも追加する。
2. 圧力配管用鋼管もガス管と同様ストック生産の方向に進んでいるので検査方法などガス管と同様に改める。

JIS 鋼管用熱間圧延低炭素鋼規格原案分科会

第1回分科会 開催日：9月21日。出席者：下川主査他16名。

会議事項

現在 JIS 専門委員会で審議中の熱間圧延軟鋼板の原案が規格化されれば現行 JIS, SPN, SPH が廃止になり、現在 SPH 1種、2種で製造している。加工性の良い電線管用などの鋼帯規格が宙に浮くことになる。

工技院の指示もあり、溶接管メーカーの意見も聞き、鋼管分科会で審議した結果原案を作成することになった。

今回は取りあえず溶接管メーカーの当規根に対する鋼種、機械的性質、寸法許容差などにつき希望を聞いた。

JIS 配管用鋼管規格原案分科会

第1回分科会 開催日：9月30日。出席者：田中主査他25名。

会議事項

JIS 配管用鋼管規格は改正期をむかえ工技院の指示も

あり、改正原案を作成することになった。メーカー側より提出された改正案にもとづき主な問題点を審議した。

1. 寸法系列はスケジュール方式を採用してからまだ数年しかたっていないし、ISO でもまだ基本線が明確でないので当分改めない。
 2. 製鋼法は鋼材にならつて削除する。
 3. ガス管はストック生産の方向に進んでいるのでこれに反する検査方法の項などを改める。
 4. 最近大径電縫管 16", 18", 20" が製造されるようになってきたのでこれらを圧力配管用鋼管に加える。
 5. 高圧配管用、高温配管用、配管用合金鋼鋼管の外径に対し肉厚の大きなものの扁平試験は意味がないので曲げ試験で代用できるようにする。
- 以上の他ユーザー側より種々の問題点が提案された。

鉄鋼標準試料委員会

第18回委員会 開催日：9月14日。出席者：池上委員長他24名。

会議事項

1. 表4鉄鋼標準試料分析成分表の検量線専用シリーズAにバナジウムAとして追加。強靱鋼シリーズAの分析を取りやめBとして追加、鉄鉱石シリーズAに酸化チタンをAとして追加する。
2. 鉄鋼標準試料の在庫試料は新鉄鋼標準試料に切替えるため、新JIS法によつて分析をやり直し、7種を新型試料ビンに入替えたとの報告。
3. 新鉄鋼標準試料製造進捗状況報告。
4. 新鉄鋼標準試料の見本として化学分析用111-1号鉄鉄、機器分析用ステンレス鋼シリーズAの紹介があり、分析成績表の見本として461-1, 460-1, 430-1, 811-1の紹介があつた。
5. フェロアロイ協会からJISフェロアロイ分析方法の審議状況について報告。新しく製造するものに、クロム鉱石、シリコマンガ、シリコクロム、旧試料を流用できるか調べたのち必要に応じ製造するものに、マンガン鉱石、フェロマンガ、フェロシリコン、フェロクロムとした。
6. 鉄鋼中のヒ素、スズ、モリブデン、銅、ニッケルチタンなど分析成分中B扱いになつているものの分析値の取扱いについて討議し、葉却検定後の分析値が分析所数の過半数に達するときは標準値を決めることになった。
7. 昭和42年度に工技院からの調査に対し、鉄鋼標準試料特に機器分析用標準試料の偏析調査試験研究(資料34)に対し鉄工業技術試験研究補助金(300万円)を申請する予定である旨回答したことを報告した。

新 入 会 員 氏 名

(昭和41年9月1日~30日)

正 会 員		新 入 会 員		新 入 会 員	
木村 剛和	住友金属工業(株)本社	吉良 輝樹	八幡製鉄(株)八幡	小沢 武	日本特殊鋼(株)
青木 健郎	〃 中技研	田中 伸昌	〃 〃	渡辺 忠雄	東洋製缶, 東洋鋼板 総合研究所
神林 隆之	〃 〃	和田 英二	〃 〃	小埜 木昭三	東化工(株)
安元 邦夫	〃 〃	細見 紀幸	〃 堺	福永 慶久	電気化学工業(株)
山口 久雄	〃 〃	尾関 昭矢	日本鋼管(株)川崎	草野 克治	黒崎製鉄(株)
岩永 竹雄	〃 〃	木原 正仁	〃 鶴見	千葉 美明	関東特殊製鋼(株)
菊池 英明	〃 鋼管	八杉誠二郎	〃 〃	白木 博明	松下電器産業(株)
中井 尚	〃 和歌山	井村 輝男	日伸製鋼(株)	松平 幸雄	東京工業大学
中川 洋	〃 〃	筒井 正勝	〃 飾磨	山下三千雄	鉄鋼短期大学
伊藤 晴敏	川崎製鉄(株)千葉	山本 武久	〃 〃	菅野 寛	大阪大学
佐々木 徹	〃 〃	森 隆資	(株)神戸製鋼所中研	学 生 会 員	
塩見 隆夫	〃 〃	森本浩太郎	〃 〃	今西 信之	京都大学大学院工学部
野口 二郎	〃 〃	衛藤 正邦	大同製鋼(株)星崎	高橋 敏夫	〃
野原 清彦	〃 〃	横山 博之	〃 中研	中村 清徳	九州大学大学院工学部
馬場佐喜二	〃 〃	大島 弘	八幡鋼管(株)	炭道 隆志	名古屋大学工学部
平谷 達雄	〃 〃	深津 清治	〃	中川 晃一	富山大学工学部
藤田 勉	〃 〃	新藤 治郎	松菱金属工業(株)	外 国 会 員	
有吉 敏彦	八幡製鉄(株)八幡	上瀬 忠興	住友電気工業(株)伊丹	Marc Aucouturier	(France)
蒲田 稔	〃 〃	棟居 義雄	日新製鋼(株)呉	尹 鍾 求	(大韓民国)
		林田 繁之	三菱製鋼(株)東京		

学 協 会 記 事

超硬高融点化合物 (SHC)
研究会開催のお知らせ

主 催 日本金属学会関東支部
日 時 昭和41年12月10日(土) 13:00~16:00
場 所 渋谷信用金庫ホール
東京都渋谷区神宮通 1-5 Tel (463) 1501
演 題 窒化珪素について 日本電工 島中和俊君
ボロンナイトライドについて 東大生研 明石和夫君
申 込 先 東京都渋谷区富士ヶ谷 2-28-4
東海大学工学部河上研究室内
日本金属学会関東支部
Tel (467) 2211 (内348)

第4回理工学における同位元素研究発表会
会場変更のお知らせ

昭和42年4月18日~20日開催の「第4回理工学における同位元素研究発表会」案内記事が「鉄と鋼」第52年第12号(11月号)学協会記事欄に掲載されましたが、案内中「会場東京大学」を国立教育会館(東京都千代田区霞ヶ関3-4)に変更されましたのでお知らせいたしません。